

# 2006年度 活動総括

## 1. 安心して子どもを産み育てられるまちづくりを目指す取り組み

### <6月～8月「請願署名3万」の取り組み>

～安心して子どもを産み育てられる草加市をめざして～市立病院の産科再開・  
抜本的な保育園待機児童対策・幼稚園就園奨励費補助金の増額等を求める請願

草加市議会あてに、市民の生活や福祉に優しい街づくりを強く願う請願を、18年6月～8月に取り組みました。草加駅頭宣伝や署名を行ったり、保育園保護者・職員のほか多くの人とりくみで29930筆の署名が集まり、9月議会に提出いたしました。この提出にあたっては、全ての会派からアドバイスをいただき、複数の会派から紹介議員になっていただくことができました。議会では継続審議となったものの、右記の議員提出議案が全会派の賛成で採択されました。

### <6/24「里保育所見学報告会&園舎建て替え情報交換会」の実施>

父母連では、あずまやさかえ父母会と共に、平成18年4/22に「鳩ヶ谷市立里保育所」の見学、5/30には180人定員の大規模園「和光市立みなみ保育園」

の見学を行いました。そこで学んだことを園舎建て替えに生かそうと、6/24に草加市文化会館レセプションルームにて、実際の写真映像や資料を交えながら、園舎建て替えに関する情報交換会を行いました。2006年に新園舎がオープンしたきたうら保育園の保育士さんも交えて、どのような園舎が望ましいか？についての大変に有意義なやりとりができました。是非、今後のあずま保育園・さかえ保育園の建て替えに反映させていきたいと思えます。

### <「高砂小学校と複合施設化するあずま保育園の建て替え」「松原団地建て替えに伴うさかえ保育園の建て替え」にかかわる取り組み>

新あずま保育園の基本設計は18年3月にできあがり、3/29に説明会が行われました。その際に「0歳児クラス設置廃止の見直し」「防犯上、保育園と子育て支援センターの入口を別に設けてほしい」旨の要望をあずま父母会より市側にお伝えいたしました。しかし現在に至り、どちらの要望も基本設計には反映されないままです。引き続きこれらの点について納得のいく説明を求めています。また19年3月には、実施設計ができあがりました。現場の声を生かしていただくためにも、保育課・公共建築課による説明会をできるだけ早期に実現するなどお願いしているところです。

新さかえ保育園に関しては、子育て支援センターを含めた建物であることから、基本設計・実施設計ともほとんど進んでいない状態だそうです。松原団地の取り壊し工事等に伴い、特に子どもたちの安全面が危惧されるということで、さかえ父母会では要望書を何度か保育課に提出しています。現在では、門の前にガードマンが常駐し、安全面は何とか確保できているようです。今後、21年度4月のオープンに向けて、かなりの急ピッチで設計・工事が行われていきますが、子どもたちの生活や保育が守られる園舎建設となるよう、さかえ保育園父母会は「建て替えプロジェクトチーム」を組み、より本腰を入れて取り組んでいます。父母連もさかえ父母会と力を合わせて共に取り組んでまいります。

### <8/5・6・7「第38回全国保育団体合同研究集会 in 埼玉」への参加>

全国保育合研が始まって以来、初めての埼玉開催でした。8/5(土)6(日)7(月)の三日間に渡り、川

#### 少子化対策及び子育て支援施策の充実を求める決議

平成17年版少子化社会白書では、我が国の合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子どもの平均数)は1.29と過去最低を記録し、草加市の平成16年度の合計特殊出生率は、1.23であり、全国平均を下回っている状況である。このような中、草加市の現状としては、市内に出産できる病院がほとんどなく、草加市立病院においても産科が休止され、1年以上経っても再開のめどが立っていない状況であり、さらに保育園においても待機児童が年々ふえ続けており、子育て支援策が充実しているとは言いがたい状況である。よって、少子化対策及び子育て支援策の充実を図るため、次の事項の実現を強く求めるものである。

- 1 草加市立病院の産科を早期に再開すること
- 2 さかえ保育園の建て替えにおける大規模化に当たっては慎重に対応すること
- 3 第2きたうら保育園の閉園に合わせて、新たな保育園を検討すること
- 4 就学前の障害児のための療育の場をふやすこと
- 5 病児保育室もしくは病後児保育室を設置すること

以上決議する 平成18年9月20日 草加市議会

越運動公園総合体育館や立教大新座キャンパスなどに全国から1万人を超える参加者が集まり、盛大に行われました。父母連は「経営主体の違いを越えて手をつなぐ父母連活動」と題したレポートを「㊦保育要求実現と国・自治体へむけての運動」分科会にて発表いたしました（家庭保育室も保育実践分科会にてレポート発表をいたしました）。各父母会からは、お手伝い要員そして参加者として約40名の方々が参加して下さいました。保育園職員も全体会の司会や分科会の司会・助言者、お手伝い要員・参加者としてたくさんのご活躍をされ、世界的にも稀に見る大規模な保育集会の成功に、“草加パワー”が大きく貢献いたしました。本当に皆さんお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。参加者の皆さんからは、「子どもたちの保育について、こんなにもたくさんの人達が結集して熱心に学んだり話し合う姿を見て、涙がこぼれるほど感動しました！」というような感想ばかりでした。今年の合研は、名古屋で行われます。全国の多くの方々と保育にかかわる交流を通して、また今年も子育ての楽しさや人とのつながりのすばらしさを実感してみませんか？

### ＜10月「草加市議会議員選挙候補者アンケート」の実施＞

11月5日執行の市議会議員選挙にあたり、立候補された全員に保育園・子育てについてのお考えをうかがう「市議選アンケートの実施」に取り組みました。その結果を保育園全世帯に「父母連ニュース号外」で報告し、父母連のホームページにもアップし、市議選投票の際の1つの大切な材料として提供しました。議員任期の4年間の保育行政に関する各議員さんや党派のお考えを振り返るための貴重な情報です。皆さんご活用下さい。

### ＜「第2きたうら保育園の受入れ年齢の段階的廃止見直し要求」の取り組み＞

#### 【きたうら保育園建替えの仮住まいの有効活用！が出発点】

もともとは、きたうら保育園建て替えの仮住まいとして、平成14年1月～15年1月までのきたうら保育園の仮園舎として建てられたプレハブ園舎でした。せっかくの保育施設を一年限りで使わなくなってしまうのはもったいないと、父母連は草加市に保育園としての活用を提案しました。これを市に重く受け止めていただき、市の内部で様々な困難がありながらも、市長、保育課、保育職員の大変な努力で、1年間かぎりの新設保育園「第2きたうら保育園」としてスタートしました。

#### 【すてきな第2きたうら保育園だから、1年で閉園じゃなく、卒園まで！】

市や職員の努力と熱意で第2きたうら保育園の運営が始まると、すてきな保育が子どもたちの素敵な育ちを作りました。こんな素敵な保育園だからぜひとも卒園まで第2きたうら保育園で子育てしたいとの保護者の熱い思いや、待機児問題を勘案しての市の更なる尽力で、受入れ年齢の段階的廃止により移園児を出さないことを条件に1年で閉園5年間だけ存続することを議会で承認していただきました（17年度:1歳～5歳/18年度:2歳～5歳/19年度:3歳～5歳/20年度:4歳～5歳/21年度:5歳のみ）。

しかし、実際に受入れ年齢の段階的廃止がすすんできますと、保育園としての機能の存続や異年齢児保育を通した子どもたちの豊かな生活が損なわれる現実が見えてきました。第2きたうら父母会では、アンケートを実施したり総会を開くなどして真剣に話し合った結果、“受入れ年齢の段階的廃止を見直し、せめて3・4・5歳児クラスの存続を！”との共通の思いが確認されましたので、市長懇談会や要望書にてお願いをしてまいりました。19年3/29の市長懇談会において、木下市長からは前向きなご回答をいただいております。引き続き、市にお願いしていく予定です。

## 2. わかり易く、やりがいのある父母会・父母連づくりへの取り組み

### ＜父母連ニュースの発行＞

各保育園の保護者の皆さんに、父母連としての活動や各園での取り組みについてわかり易くお伝えするために、毎年事務局からは「父母連ニュース」を発行しています。18年度は、計7回発行(6/10・7/29・9/9・12/9・2/10・3/10・4/1)し、『園舎建て替え情報交換会/請願署名の取り組み/全国保育合研/0歳児保育のあり方/市長懇談会/子育てのつどい/さかえ・あずま保育園の園舎建て替え・第2きたうら保育園の存続に関する要望書/19年度父母連のあり方/ほうんネット発足/入園・進級おめでとう号/草加市の保育の現状など』についてお伝えしてまいりました。よりわかり易いニュース作りをめざし、19年度も取り組んでいきたいと思っております。ご意見等ございましたら、

各父母会役員もしくは父母連メール [info@soka-fuboren.org](mailto:info@soka-fuboren.org) までお願いします。

### ＜会長会・代表者会の開催＞

18年度は年2回の会長会（6・2月）そして年8回の代表者会（5・7・9・10・12・2・3・4月）を開催してきました。会長会では、①各園の状況や父母会運営についての情報交換 ②父母連事務局からの新たな提案などが行われました。代表者会では、①父母連事務局から各園への様々な事務伝達や報告 ②各園からの報告 ③保育情勢などに関する学習会などを行いました。

各園の会長や代表者の皆さん、ご協力ありがとうございました。今年度の会議を通して出されたご意見・反省点は、是非19年度に生かしていきたいと思えます。

### ＜父母連アンケートの実施や市長懇談会への取り組み＞

父母連の活動は、各園の保護者の皆さん一人ひとりの声が集まって初めて可能となるものです。そのためにも各園の声を会長会や代表者会で直接情報交換し合うと共に、年に1回各園の全保護者の皆さんに父母連要求アンケートを行い、一人ひとりの声を市への要望事項に反映させるための大変重要な取り組みを行っています。その集計結果は、市への要望書に反映させたり、集計結果を冊子にして各園にお配りしたりしておりますので、皆さんで回覧されたことと思えます。また特に18年度は、アンケートの記述部分を各父母会にてフロッピーに入力していただく大切な作業を担当していただきました。ありがとうございました。

これらのアンケート結果をもとに要望書（市長懇談会の資料）を作成し、18年度は11/23に「市長懇談会（今までの要望集）」を市主催で開催していただきました。市長懇談会には、各父母会から67名の参加者があり、主に「新さかえ保育園の定員問題」「あずま保育園建て替え」「第2きたうら保育園の存続」「公立保育園での0歳児保育の廃止・家庭保育室の充実」等についての活発な話し合いが行われました。しかし時間が足りなくなるほどの課題の多さでしたので、また新たに3/29に再度役員レベルでの市長懇談会を市に企画していただき、前向きな意見を交わしながら、有意義な話し合いができました。

### ＜父母連ホームページの立ち上げ＞

18年度は新しく父母連のホームページを立ち上げました。ホームページには「父母連の活動／草加市の保育園／父母連の活動／これからの予定／おしらせ」などがあります。また、父母連メール [info@soka-fuboren.org](mailto:info@soka-fuboren.org) も設定いたしましたので、メールを通して皆さんの意見を吸い上げることができるようになりました。

## **3. 私たち自身が楽しく学べる組織活動をつくる取り組み**

### ＜11/12(日)「第15回子育てのつどい」の開催＞

18年度も一昨年同様、父母連・草加市職員労働組合保育部会・草加市家庭保育室連絡会・NPO法人冒険あそび場ネットワーク草加・NPO法人子ども広場草加おやこ劇場との共催で「第15回子育てのつどい」を勤労福祉会館大ホールで行いました。市内の家庭保育室やNPO法人さくらんぼなどの団体による日頃の保育の様子を紹介するパネル展示では、草加市の子育てをいくつもの子育て支援団体や市民が主体的に支えている様子が生き生きと表現され、皆さんで再認識できたのではないのでしょうか。全体企画は、すばらしい保育実践そして全国的にも有名な園舎作りをされた「鳩ヶ谷市立里保育所の蔵持康子園長先生」による“忙しい！でも楽しく子育てしたいよね”のテーマでの講演会を行いました。楽しいお話しを通して、子育てや保育現場で大切にしたい原点を学習することができました。一方子どもたちは、あさひ保育園にて「紙劇戦隊パネルレンジャー」によるパネルシアターを楽しみました。感想アンケートのまとめを代表者会議で各父母会にお届けしました。19年度も、参加して良かったと思える企画を行っていききたいと思えます。

### ＜父母会主催「CAPワークショップ」への補助＞

18年度の「CAP（Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止）ワークショップ」は各父母会企画で行い、父母連としては大人ワークショップの講師交通費と子どもワークショップ1回分の講師交通費を補助する形で応援してきました。18年度は“やはた・さかえ・こやま・やつか・たかさご・にしまち保育園”がCAPワークショップを開催し、子どもを守る取り組みを行いました。

## ＜くめまぐるしく変わる保育制度を学ぶ＞

保育園の指定管理者制度、認証保育園、認定こども園、幼保一元などなど、この数年間で制度改革の名の下に次々と保育をめぐる様々な動きが国や地方レベルですすんでいます。正しく情勢をつかみながら、的確に提案をしていく主体としての父母連の学びの活動の一環として、学習会『どうなる？どうする？保育情勢を学びあおう！語りあおう！』を1月27日に草加文化会館で市職員労働組合保育部会と共催しました。講師には埼玉県の次世代育成支援行動計画策定協議会の副会長をつとめ、昨年、第38回全国保育団体合同研究集会の開催地実行委員長でもある立教大学教授の浅井春夫氏をお招きしました。民営化の行き着く先は保育園の営利事業化であること、「ただ反対をすればいい」では未来が見えないことなど、埼玉県や全国各地の動きを研究している浅井先生ならではの深く重いメッセージをいただきました。なおこの学習会には「草加市家庭保育室連絡会」からのご参加もいただきました。

## 4. 共同の輪を広げる取り組み

### ＜11／26「草加子育て団体交流会」の実施・家庭保育室との交流など＞

父母連主催で「草加子育て団体交流会」を開催しました。1回のみの実施でしたが、保護者・公立園保育士・家庭保育室経営者・認可外保育施設経営者・NPO法人経営者が集まり、様々な広い側面から保育や子育て支援に関する情報交換を行うことができ、父母連の今後の方向性を考えていく上でも大変に参考になる内容となりました。

また特に18年度は、「0歳児保育のあり方（“公立保育園における0歳児保育を将来的に家庭保育室に移行していく”という市の方針）」をめぐり、公立園と家庭保育室との情報交換の機会も設けてきました。

### ＜民主教育をすすめる草加市民会議＞

主に小中学校・高校の教育の課題に取り組むゆるやかな集まりで、父母連も団体に加入していません。少人数学級の実現や市内の小中学校の給食の民営化問題、2学期制導入は子どもたちにとって必要なことなのか、などなど、私たち保育園保護者が数年後に当事者として直面する学校教育をめぐることから、学校の先生、学童保育の指導員や保護者、女性団体と日常的に意見交換やとりくみを作っています。もちろん保育も教育ですので、保育園の保育料のこと、待機児童のことなど、父母連から保育情勢を発信し、この会にあつまる市民との共有や一緒のとりくみをすすめています。

民主教育をすすめる草加市民会議も父母連と同様、市宛の要望を提出して市との懇談や教育予算説明会などの機会を作っています。この中には保育園新設や公立園における0歳児保育の継続などの要求を父母連からの提案で入れています。

### ＜母親大会＞

「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」を合言葉にした半世紀以上の長い歴史のある、母性を核にして暴力と貧困のない世の中作りを取り組む運動体に、草加父母連も加入しています。9月の草加母親大会（勤労福祉会館）の乳幼児分科会には父母連が運営責任団体としてかわりました。

## 5. その他

### ＜川口・園児死亡事故の署名活動への協力＞

18年9/25に、川口市で保育園児の列にワゴン車が突っ込み、21人が死傷、4人の園児が死亡した痛ましい事件がありました。「第24回埼玉のつどい(12/3)」にてご遺族の方々による必死の署名活動が行われており、父母連も署名活動に協力させていただきました。各父母会のご協力により、「起訴内容変更要求（危険運転致死罪への変更）／さいたま地検提出」についての署名が6325筆、「刑法211条(業務上過失致死傷罪)改正要求／法務省提出」についての署名が7319筆集まりました。約18万筆の署名は、判決内容や今後の刑法見直しの動き、危険運転防止のための道路改善へと反映されています。悪質ドライバーによる、このような悲惨な事故が二度と繰り返されることのないよう強く願いますと共に、亡くなられた4人のお子さんのご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思います。